

つた。

「映画では、夢におけると同様に、『事実』が絶対君主である。抽象はその権利をうしなう。どのような説明も、主人公の身ぶりを正当化するために、登場することはない。」

ここで彼が「事実」というのを、シュルレアリストが「物」といふのと一般であると考えれば、これはシュルレアリズムにも通じるいいかたである。ここに非常に興味のある事実に当面する。それは映画とシュルレアリズムは、たびたびぼくもいってきましたように、あきらかに同時代人であるが、その映画が無声黑白であったために、この同時代性がとりわけ發揮されたので、映画がトーキ化された一九三〇年代初期には、映画もシュルレアリズムも脱皮せざるをえなかつたということがある。映画はトーキーとともに現実化され、シュルレアリズムは革命的な政治性をもつにいたった。

「こうして映画は、意識的な幻覚を成立させ、この夢と意識状態の融解を利用する。この融解こそは、シュルレアリズムが文学の分野で実現させたかったことである。」つまり彼にいわせれば、映画はシュルレアリストのやりたいことをみごとにやってのけたということになるが、映画のがわのひとたちの考える「まえもつてつくられた夢」と、シュルレアリストのぞむ「自動記述」の夢とのあいだには越えられない距離のあることは、覺悟すべきである。

これについてゲーダルは、シュルレアリズムの重大な命題である論理の放棄をとりあげた。

舞台、客席、薄明り、
声ノミー手紙文
Music——君だけに愛を
By タイガース
トウさん「非常に暗い夜です。リヴァプールの夜より暗い。湖にはモヤがあり、大きな帆のある漁船は一日中魔法の船のように空中にかかっているように見えます。今年は悪い風邪がはやっていますから、マスクを買う時は充分注意して下さい。戸棚のマーマレードも $\frac{1}{2}$ ほどになってしましました。そうだルシーは何處にいますか？あの娘に会ったら夢遊病なんかやつてはいけないって言つて下さい。非常に早く時間

——ハピニング劇——

比処か彼方処か、 はたまた何処か？

HELLOW-GOODBYE

作／上 杉 清 文
内 山 豊三郎

がたつので息がとまりそうです。さつきまでは完全に止まっていたんですが。頼んでおいたビートルズのポートレートはどうしたのですか？偏執狂的腸捻轉的絶望性の果てに、言わずもがなあなたのレノンより」

カアさん「手紙は短かく、電話は長くっていう私との約束を忘れてはいけませんね。その一、ペンを買いにジ・アップルに行つたこと。その二、ところがペンを買わずに隣りの駄菓子屋さんに行つたこと。その三、駄菓子屋さんでカンシャク玉を買ったこと。

「もし全面的な論理の放棄が、おなじ論理から生まれた言語に禁じられているとしたならば、映画はなんの違反もなしに、内部の避けがたい要求にそれをゆるすことができる。」

「そういうとき、ゲーダルの頭におったのは、『シュルレアリズム宣言』にアンドレ・ブルトンが書いたつぎのことばである。

「もっとも強力なイメージは、もっとも高度の任意さの度合いをしめすイメージである。」

そして同時に、ブルトンはその例として、フィリップ・スープーPhilippe Soupaultのイメージをあげた。

「教会は立つ。鐘のように鳴りひびく。」

しかしゲーダルにいわせれば、読者はこの二つを並列させることができないので、その比較を承知しないというのだが、果たしてそうであろうか。またゲーダルは映画ならこの二つの並列のイメージは観客にすぐ受け入れられるという。たしかにそのとおりであるが、スープーの文章も現在の読者ならなんの苦もなく承知することも事実である。

またブルトンは詩人ピエール・ルヴェルディ Pierre Reverdyが『ノール・シュッド』Nord-Sud（一九一八年三月号）に発表した文章のなかから、つぎのようなイメージ論を引用した。

「イメージは比較から生まれるものではなく、程度の差こそあれ、たがいにとおくに離れた二つの実在を接近させることから生まれる。」

ブルトンはこれを断乎として否定したが、それは彼が「この二つの実在の関係を精神的に把握すること」に反対だからであった。

その四、夢みるような眼差しであつたこと。

その五、飛びつくようにふるまつたこと。

その六、店のオカミさんとの会話は実に優雅であつたこと。

その十五、まだ私を愛してますね。

その十六、みんなのシンシアより」

「レコの操作による変型された声で

「思い起せばそれは、二十世紀のことでした。衰退する香具師の

精神に亡きピートルズの面々が侃侃諤諤と捧げたてまつらん、少

だおつなクイエム。そはゴーゴーの形式によるスイミンの葬送の

バラードなるか。」

ノコタン「トウサンもカアサンも御存知なかつたのでしようね。未
来は唯物論的であるだろうってあのヨーロッパを棄てたランボー
が咲いた日のことを。私の憧れた人間像は、無秩序と純感の中に
だけ生きて行けるものだつたの、私はなまはんかな△超人▽の幻
など絶対に見はしなかつたわ。トウサンやカアさんと田舎汁粉を
食べながら、△この山陰にはまだ二十世紀は訪れ来ぬ……▽なん
てひどく恰好よかつたのは十五の時だつた……私つて「いい子にな
る」ってどうとう約束出来なかつた人間なのね……服毒自殺つ
てハイミナールを飲、ようなわけには行かないものなのね」

舞台、客席の明り落ちて暗闇。

ノコタン「二十世紀よ私はお前の混乱の中に生れ、生きそして死んで行く、この栄光のみが喜びだ。素知らぬ顔で築かれてゆくお前の歴史は、やがて遠い世紀からの夢の誕生を夢のままには終せな

声「駄目です。ここでは言えません」

「瞬、間になる。照明入るとそこはとあるゴーゴースナック
『夢みる反帝反スタ』、リズム・アンド・ブルースが鳴り響
き、A・B・C・D・E・Fがしゃべっているが、客には聞
きれない。突如、音がなくなる。」

C「全てが幻なのよ、家族も、友人も、町も全てがコロコロ変る猫の眼だつて、あれだつて幻なのよ」

D「手つとり早く言つちやえばさ、窓も出口もない独房の壁にじつと頭を押しつけて、マザーゲースのこんな変え眼を歌つていて心境不

て心境不」

△月○日カラスは探す

「△月○日カラスは止まる

一九××年の雨風と一緒にタラフク食つて帰つて来る

一同整列!

おつかれさんでしたーツ

D「可愛い七つの子つて、七つの大罪のことかしら」

A「アンサン、實に素晴らしいじやん、背骨の線がイイ線いつてるよ。まるでトリスタンツアラがチューリッヒのカフェで見ちけたダダっ子みたいだよ。ひと握りの海草とエメラルドとを、砂の上の植物群にまきちらしたい、というまさにその瞬間の表情を作つて見せてよイイヘラー」

D「まあ、杉田さんの△アナベルリイ▽の作曲も破格的なものだつたけど、貴方の注文も破格的ネ、もっと比較的やさしいやつにし

C「ところがショール・レアリズムってのはそんなんじやないわけ」

いだらう

一の一

スライドー荒野を地平へ向つて歩いて行く一人の男。

女1「窓を閉めて頂戴、やっぱり寒いわ」

男1「僕達の心配は全くまちまちだね」

M—イエスタデエイ Byピートルズ

女1「金曜日の晩、どの信者にも一人の天使がついて、教会堂から家へ送り届ける。家主が天使たちを食堂に立ちながら迎える。天使たちはほんのちょっといるだけ」

男1「今、僕の考えが少々自由になり始め、そして僕に多分少し考
える力があるような晩には、僕は窓の方へ向つて走り、粉微塵に
なったピートルズのLPやトウイッギーの写真の山をぐぐつて、
ブリーズ、ブリーズ、ミを唄いながら全力を使って弱々しく窓の

枠から踏み出す」

女1「私がものを言うときに抱く虚偽の感情は、二つの窓を前にし
て、左側の窓からしか出られない一つの現象を持っているという

比喩でしか表現できない」

男1「僕達は、両親にそのことを何も言いたくなかった。九時過ぎ
てから基地の左手の草のはえた空地を見ながらラヴ・ミー・ドウ
を合唱した。」

Hが突然入つて来て

H「その確信のなさは、確かに空間についていろいろと考えている
ことから来ているような気がする」

E 「カーマ・スートラは誰にあげたらしいのかい？」
F 「決つてゐるじゃんか、ニワトリさんよ、彼スゴク気が短いのよ、ホントヨ」

B 「ドンキホーテが見つめていたのは正に一つの星である……」

ロマネスク並びに妄想の精神のおかしみの深さはなんと、う深さであろうか、その深さおよそ、マーク・トウェン」

A 「しかし唯心論は高貴なバラの香水であることを君はトイレの中で考えたことがあるかネ、彼方處の島国の犯人者同盟とやらのウニチ・テアトルを」

B 「いやさ、俺はいつも△純粹理性批判△の文体について思考しているんだわナ」

D 「ねえ、ちょっと、ニワトリさんはどうなつちやったの？」
C 「サイレンス・イズ・ゴールデンボール！ 悲劇のあと、茶番の話してんだからさ」

D 「でもサ、同情だ！ より高い人間と悩みを共にする同情だ！」
F 「遠うわよ、アントナン・アルトーよ」

C 「あれは違うわよ、ニーチェが言つたのよ」
A 「誰が駒鳥を殺したか？」

C 「フリードリッヒ・ニーチェ」

E 「いや雀が反動的だつていう罪で裁かれたんじやなかつたのかいい、あの話は」

D 「そろよそれもワグナーの伴奏でネ」
A 「いや駒鳥のための……」

B 「△ワトリだろ」
C 「まさにコロンブスの卵ネ」

A 「駒鳥のための弔いの鐘が鳴るのをイヤミを感じて聞いていたのはアボリネールさ。彼のホウタイが問題さ」

B 「ナンセンス！ ホウタイとか眼帯は凹面鏡の恐怖を球体にまで延長して考えて見るという作業にすぎない。北一輝の右目の問題さ」

D 「マジカル・ミステリーね。素人が集つて議論するとマニエリスムも絶対主義にかなわないんだからネ」

C 「ホント、かなわないわよ、ブルームさんの内的独白ってのも信用出来ないわけよ」

M 「ジー・サイド・ハウンド By タイガースが突如入る。全員踊りながら歌う。

E 「GO! GO! GO!」

「踊りに行こうよ反革命の向うへ
でっかい暴動は愛の女神なさ

シーサイド・ブランキ・ゴーバウンド

D 「あら、私ふと幻覚状態からマクルーベン的に逸脱しちやつて日常性の恐怖はたまたま市民の倫理に目覚めたわ、ねえお兄さん、カンバしてよ、反対が二十五円足りなくて中に入れないよ。ねいいでしょ、ネ、そんなブルコメみたいな顔しないでさ」

C 「そうよ、今や転換期なんだからさ、エネルギーを出しなさいよ」

D 「男ってのは客観的に、出す。義務があるんだからサ」

A 「衝動的性格では、衝動に対する防衛として用いられる機制は反

動形成ではないからエートどうしようかな」

D 「皆さん聞いておくんなさんせ、この人カンバしてくれないので、困っている人にカンバするのはさ、現代人の常識なのにさ、してくれないのよ。この人ジャーナリズムに全然感動してないみたいよ」

CDEFが、Aに対し攻撃。

A 「おーあー困つた困つたこの存在の不毛よ、私の見知らぬ深渊にへじて誰が語り得るか、希望の始まりナジャは何処じや！」

C 「まだゴチャゴチャやつてんの、早くしないとゲバルトを使するわよ」

A 「それがあらぬか、はたまた何処か？ 乙女の姿しばし留めーん」と二十五回渡して去る。Cは反対側に去りGを伴なつて再登場。

G 「髪結いの夢主です。世話をかけてすまんのう」

C 「なんの、このグラフィックな時代にそのような気がね」

G 「一発やるか。アルジ、テーマ・ソングとしこう！」

M-ハロー・グッドバイ By ピートルズ にあわせて全員輪になって踊る。Mが突然止りAが飛び込んで来る。

A 「問題はー！」

BCDEFG 「問題は」と言ひながら混乱状態。

H 「まやあつて、そしてなにより、否、就中のいべらばう。の捉

え難いのは、勿論それが。のいべらばう。だからである」

舞台暗転。

スライドー荒野を歩く男と女。

上手半分に照明が入る。
男1 窓を閉めようか寒いだろう

女1 「閉けといいいわ」

男1 「僕にはなんだか心配はないよ、だな」

女1 「金曜日の晩には天使なんかつたわ」

女2 「右手の小指が中指より長いジョン・レノンのような若い男が爪をなめていただけよ」

男2 「ふーむ、なめていたと」

男1 「なめた話した」

男2 「なめるのはよせ！ 俺は女2を愚弄する方法を考えている」

男1 「俺は女1を愚弄する方法を考えている」

女2 「私は男2と愛について語りたい」

女1 「私は男1と愛について語りたい」

4人 「では早急にそれを実行に移しましょ」

四人、ピートルズの配置につき歌う
「在りし昔のことなれども
わたしの水河の里住みの
あさ瀬をとめよその呼び名を
アナベルリイときこえしか
おとめひたすらこのわれと
なまめきあひてよねんもなし
四人、サーとおじぎ、暗転。
男1が一人間に座っている。

男1 「君子は約束す！ △エディップス複合は去勢不安の結果として消滅する▽つてフロイトさんがおっしゃったようですが、ありや間違っていますネ、あれは再生するんですよ。我が愛しのトロッキーさんもおっしゃってるじゃありませんか△本文略 それを複合発展の法則とよんでよからう▽つてネ。今はねーとにかく再生つてのがはやつてんだつてヨ」

一の二

M—寄席の音楽。

H 「まずもって、そして何より、否、就中△の△ペラボウ△が捉え難いのは、勿論それが△の△ペラボウ△だからである」

と去る。右、△の△ペラボウ、左の順に並んで登場。△の△ペラボウはカンシタク玉を所持し常に投げつけながらしゃべる。

左「非在との△ペラボウはどう違うのですか？」

の△ペラボウ「非在、それは哲学的思考法によって論理的に措定されたネガティヴで空虚な何物か、△の△ペラボウ、それは文学的思考法によってのみようやくひそかに暗示し得る一種の暗いビジョン」

右「君の、君のあたたかいハートにタッチ出来た人は？」

の△ペラボウ「ブレーク、ボオ、ドストエフスキイ、それから、ぶふい！」

左「あなたに気付くにはどんな方法があるのでしょうか」

の△ペラボウ「愚労ーツ！ 出発不可能、追いつき不可能、前進不可能」

一の三

M—THE FOOL ON THE HILL By ビートルズ

男2 「僕にできることならなんでもしてあげるよ、寒いだろう、窓を開めようか」

女2 「金曜日の晩に訪ねて来た坊やね、随分背が高かったわね、高かったわね。ホント高かったわ。一七三cm位あったかしら、全然自信ないわ、でもなんとなくそう思ったの、一七三cm位あったかしら、そう一七三cmよ、一七三cmだわ、絶対そうよ」

男2 「今度こそ僕は、単なる國式的なもののいやらしさを感じている。僕の皮ふ感覺に栄光あれ！」

女2 「一七三、一七四……一七七、一七三・五、一七四・五……一七七・五

金曜日の晩にはいつも天使が二人手を取りあって△キャント・バイ・ミ・ラヴ△をハミングしながらマーマレードスカイを跳び回っているの」

男2 「見あきた。夢はどんな風にでもある。持ちあきた。明けてもくれても街々の喧噪だ。知り飽きた、差押えをくらった命一ああ、△たわごと△と△まぼろし△の群。出発だ、新しい情と響と△」

H 「ツバメ一羽」

男2 「僕の一日は終った、僕はヨーロッパを去る。海の空氣は僕の肺を焼くだろう。僻地の氣候は僕をなめすだろう」

右「解答不可能な事態を我々どうして背負つていかなければ……」の△ペラボウ「生き急ぎなさんな、人生の最上の幸福、そんなものはありやしないよ」

左「あれま、左翼もあわてるそのお告げ、ああ私の頭の中をコッカスパニュエルが駆け回る。クルクル」

右「馬鹿バカしい、と思いますが、それでは最大の不幸は」の△ペラボウ「群棲しているのに単独者であること或いはその逆」

左「ガムがひつかかっちゃったみたいですから、ちょっとトイレに行つて来ます」

右「アレがいい間に何かプレゼントを、何んなりと」

の△ペラボウ「大沈黙、時を告げない大時計、暗黒星雲」

右「すぐ用意致します。じやサッパリしたところへでも出掛けました△ペラボウ「こうとしか考えられぬこの思考法」

右「だがそれでもどうしてどうしてカスター、プリンがプリンしているのは何故だ？」

右「エエエエッ、ギヨーム、すりや私めはどうすれば？」

の△ペラボウ「こうとしか考えられぬこの思考法」

右「だがそれでもどうしてカスター、プリンがプリンしているのは何故だ？」

H—登場。

カンシタク玉の破裂音。

M—落葉の物語 By タイガース。

左「あなたに氣付くにはどんな方法があるのでしょうか」

の△ペラボウ「愚労ーツ！ 出発不可能、追いつき不可能、前進不可能」

H 「此処か彼方処かはたまた何処か？」

カンシタク玉の破裂音。

H 「つばめ一匹」

男2 「はて、この前の世紀には僕はなんであつたろう、今の僕が見つかるだけだ」

男2 「しかし今は呪われの身だ」

H 「つばめ一匹」

男2 「はて、この前の世紀には僕はなんであつたろう、今の僕が見つかるだけだ」

男2 「ぶふい、出発はやめた、己の惡徳を負つてこの道をもう一度歩き直そう」

H 「つばめ一匹」

男2 「金曜日の晩に訪ねて来た坊やね、随分背が高かったわね。一七三cm位あったかしら、全然自信ないわ。でもなんとなくそう思つたの……。そう一七三cm、一七七cmだったわ、絶対そうよ。一七三cmから一七七cmまでは僅か四cmの莫大な距離、時速一三kmの荷馬車で何年かかるかしら」

男2 「生活は労働によつて花開くとは昔ながらの眞実だ」

H 「ツバメ一匹」

男2 「ところで僕は、僕の生活はそんな重苦しいものではない、世界の重点、行動のはるか上層に飛びさりただよつている」

男2 「とは言え僕は自然といふものを知つてゐるのだろうか。又自

分といふものを分つてゐるのだろうか。——もう言葉は無用だ。

死人どもは僕の腹の中に葬る」

声「註！『死人ども』一は亡び去つたもの、つまりヨーロッパを指す。『腹の中に葬る』ニーは黒ん坊から食人種への連想を指す。

以上、註終り

男2「叫び声、太鼓の音、ダンス、ダンス、ダンス！」いずれ白人

たちが上陸して来て僕が虚無の中に落ち込む時はいつかはまだ念頭にもない。飢え、渴き、叫び、ダンス！ダンス！ダンス！

ダンス!!」

M—ディジー・ミス・リジー By ピートルズ、が激しい。そ

の中から次の声が重なつて聞える。

「ああ、あんな恰好で何をしているのでしょうか。こんな時間に」

「ああ、あそこでどうして思いがけない旋回をするのかしら」

「ああ、どこへいらっしゃるの此處にしてよ」

「約束したのはみんな嘘なの」

「いや帰らなきやならないんだ」

男2「泣きながら僕は見た、黄金を一飲むすべも知らずに」

H「ツバメ一羽」

男2「聞いてくれ、僕の数ある狂氣の中の一つの物語、さてもさで

も」

H「ツバメ一羽」

男2「僕の鍊金術には古めかしい詩法が多くの部分を占めていた」

H「ツバメ一羽」

休憩劇

客席と舞台の間に金アミが張られ、男二人がその中で対話をする。今回は、埴谷雄高著「虚空」（現代思潮社版）の「標的者」よりP一八〇～一八五のミュートニーの対話の部分。戦争論です。

二の一 脳細胞学における集中試行的分類の章

M—マジカル・ミステリー・ツア By ピートルズ

ジイチャン「いくつになつたかいねや？」

娘「今日でちょうど、16才よ」

ジンチャン「ホーム、16か、ホーム」

娘「ホンニ雪が降つたからもう春なのね。お話しして下さい。こう

して旅をしていると楽しみはお話しと熱い茸スープだけ」

ジイチャン「えー、私はここで少しばかり勇気について、お話ししたいと思います」

と客席に

娘「違います。断じて違いますわ。何故って、二十世紀、私はお前の混乱の中に生れ、より遙かあとから生れて来た私の興味は、そこに何もない、ということだけなもの」

ジイチャン「そら、成層圏へ昇る度に、あの屈辱がよみがえつて来る。お前の眼が視力を失なおうとしても、実現不可能な種族的、遺伝的原因の前で、ヨタッていた時、ワシはボクの唇で、叫ばな

男2「而も僕は、僕の魔法の詭弁を、言葉の幻覚によつて説明したのだ」

H「のつべらほうからあなた方に贈物があります」

男2「僕の性格は鋭くやせて、物語の中にいて、人の世には別れを告げたのだ。ツバメ一羽、二羽、三羽、四羽、百羽、のつべらほう？それ何だ！それ何よ？それ何さ？それ何か！」

男2「それ何なの？それ何なんだ！それ何なのか！」

男2「ああ、時よ来い。ああ陶酔の時よ来い」

男2「ああ、時よ来い。陶酔の時よ来い」

外の声と音楽、高まる。

「緑色の脈管を通つて花を咲かせる力が」

「僕達の青春の花を咲かせるんだ」

H「時よ来い。ああ陶酔の時よ来い」

「心臓の季節の経過が」

「湿りを乾きに変える」

「血管の区域の世界が」

「夜を昼に変える」

外の声、駆ける音が舞台に近づき、照明消え、音楽ストップ。ホリゾントがはずれ、外からのバックライトの中を一団がワーフと舞台にかけ込む。照明つき、侵入した一団「HIGH SLOW!!」と叫ぶ。照明消え、一団去る。男2が遠い明日に向つて荒野を歩き去る。

H「ツバメ一羽」

いよ」と注意したんだったなあ」

娘「おいでフー、フー、おいで、肉の季節はもう終つたわ。出でいで、貨物列車の重い扉を押し開けて。サンジェルマン・デ・ブレの鏡を持つて、さあ早く！」

ジイチャン「さあ」

ジイ・娘「さあ、さあ、さあ」

鉄の人登場。

鉄の人「そもそも僕は」

ジイ・娘「何奴だエー」

鉄の人「イヤサ」

ジイ・娘「何奴だええ」

鉄の人「東洋が今まで誰も昇つたことのない成層圏に昇つた時、勇敢です」

娘「勇敢だったので、東洋は、今まで誰も昇つたことのない成層圏へ昇りました」

ジイチャン「残念ながら圏外にあります。では今週の第一位は！ああ懐しいですね、亡きピートルズのマジカル・ミステリー・ツアードです。いきましょう！」

M—マジカル・ミステリー・ツア By ピートルズ

鉄の人「裏切られた！」

娘「私の経て来た、ぎゅうぎゅうづめの肉。冷く重い鉛色の厚い美しい醜怪な優美で恐ろしい過去のエロティシズム。一方は自然と仲良くなろうとして、お使いに出されたまま、帰つて来なくなつちやつたのに対し、もう一方は、自然を疑問に投入しようと求

めて、三十センチ四方の天然色の写真入りチケットを首から下げて、軒下に立ちすくんだまま、身動き出来なくなっちゃった。私にはそのどちらをも消し去ることは出来ない」

ジイちゃん「ということはどういうことか。二義的な言葉でなく話してくれ」

娘「つまりこうじうことさ。恐怖と魅惑は互いに混ざり合つてゐるし、無邪気さと爆発はともに駆けに役立つ」

鉄の人「ということはどうじうことか、二義的な言葉でなく話してくれる」

娘「ケッ！ 快適な時間にはどんな阿呆でも弁証法を知つてゐることよ！」

鉄の人「ということはどうじうことか二義的な言葉でなく話してくれ」

ジイちゃん「巧言令色スクナシ仁、友アリ遠方ヨリ来タルマタ楽シカラズヤ」

バター屋「娘が来る。バター屋が来る。

バター屋「以上の文章は素面で書いたものではない。私は飲んでいた。—81Pよりの引用」

バター屋残してみないそいで退場。

列車屋、登場。

M—ペニー・レイン Byビートルズ。

バター屋「誰だア」

列車屋「誰でもない。ただ、鐵であるだけだ」

バター屋「待つていた」

終曲一 あしからずの章

M—ヒヤ・ゼア・アンド・エヴリホエア Byビートルズ

女1「(ミミであるかも知れない) むずかしいわねそれは。部屋の片隅には方形の地板まで続くような穴があいているわけだけれど、そこから現の様な冷い氣流が昇つて来て、時ならぬ水言葉をささやいたわ、とてもとても難しい、押す時の角度は」

男1「キリコ。夢まだき頃の話か。ところで……」

女1「あれ？ (問) 私がデスマスクだと思っていたのは実はライスマスクだったわけ。或る日ふとそれちがつたミミズク街のとある街角でハタとそれに気がついた時。髪が燃えた。笑つていいのか泣いていいのか分らなかつたけどとにかく笑つたわ。信号が紫色だつたから。二十・七世紀も感違ひしていたわけ、無感動の感動、逆ではないわ、ダダ」

男1「歌つてたわけ？」

女1「ともすれば歌いそうだわ、けどほらミミズクが……」

男1「道ならぬ恋歌か。ホム！ 川がはげて行くようなエレジーとはそもそも何か」

女1「不連続線の屋根の下ではないけれど、プレーヤが壊れてしまつたので、仕方ないから針を落したまま、薬指でターンテーブルを廻したの」

男1「汗はひとつも出なかつたらう出るわけがない出たいとも思わない。核なんある筈はないしもある必要もない。五線紙におしこまれた青春か。いや音楽家のことではないんだよ勿箇。今まさに

列車屋「待たせていた。悪かった」

バター屋「あやまる必要はない。反省すれば良い」

列車屋「半世紀も待つていたのかい？」

バター屋「うそだ。時刻表が間違つていただけだ」

ジイ、娘、鉄、つながって登場。

娘「ダメ。云つてはダメ！」

ジイちゃん「ああ、聞きたくない、早く行こう。旅を続けるんだ」

娘「でも足袋と三度笠とワラジを川底に置き忘れて来ちゃつた」

ジイちゃん「コレコレこの娘は、まちがうでない。ヨーロッパ！」

娘「ああ、又後髪を引かれる思いでこの土地を後にするのね。サヨナラ、サヨナラ、ああ、あなたはそんなにバラソルを振る。あなたはそんなにバラソルを振る」

二人、荷物を持ち後方へ歩き出す。

鉄の人、バター屋、列車屋、はそれを見送る。

鉄、バタ、列車「バイバイ、GOODBYE GOODBYE、サヨナラ、サヨナラ」

と旗を振つたり、バンザイ三唱。

鉄、バタ、列車「さあ、皆さんもお見送りして」

とお客様を渡す。客も見送る。

鉄・バタ・列車「あー、よかつた、よかつた、これでこの町も平和に戻る」

と笑いながら三人なぐり合ふ。

男1 「過去がないからさ」

女1 「……水盆か……」

と怒ったように云う。気まずい沈黙M—チケット・トウ・ライド By ビートルズ にあわせて女3が再び突然出て来る。

女3 「あ、お兄さん方だ、ソリに乗ってチケット・トウ・ライドを歌ってる。ああ」

女1 「(突如変身して)ランカシャー行きの列車に乗ろうよ、体を包んでしまっくら、大きなハンカチーフを持って、ニューヨークやターマニヤホレンソリヤや原宿の表通りに水が流れ川となって川鶴が鳴いているっていう話をしながらミニスカートを一〇mづつ短く短くはさみで切りながらスキーを持ちながらインディアンの羽飾りに埋れながらタラップを登りつめるところは空でしょ。空へ入って行こうよ。おなかを三〇m程左右に振り振りしながら!」

男1 「(突如変身して)おお小枝のことを君よ。君知るや僕のニキビの歎を?」

以上のセリフは非常に早口で云うこと。
女3 「去る去る去る去る去るといながら去る」
男1 「(元の調子に)ではない。猫的な接近だ!」
女1 「ああ燃えあがって来る光への壮大な欲求のつり、光源となりたい。私は光になりたい光に光に」
男1 「なれよ」
女1 「あっそう、じゃなる」
男1 「ホラなつた、どう感じは?」
女1 「とは露知らず、ああ想い出すもう少し、もう少し、えーとあ

二〇一 あらゆる存在はそれ自体において円じように思われるの
二〇二 省略

二〇三 異象論と万象論の対決の章

M—BLUE JAY WAY By ビートルズ

ジイチヤン 「じくになつたかい?」
娘 「今日でちょうど九よ!」

ジイチヤン 「フーム、九か、フーム」
娘 「十字路の真中で解体しきて消えちまえどでもおうしゃるんですか? それとも膨張しきて爆発しまえったの?」

ジイチヤン 「何? 何だと?」ってのギリシャ語で言つたんさ!」

娘 「私の体の最も体的な部分表情が夕日の海上をころがる白い石の様にホットでケッキにはやる人達みたいに分離しても私のあくびは悪日和を克服して、生られるかしらんや否や!」

ジイチヤン 「とまれ! そは、ハーリング・ボーンは似合ぬぞよ。チエックにしなさい」

女生徒 「ここはどうあうにするんですか?」
女先生 「自分で考えなさい!」

ジイチヤン 「こういう約束の範囲から出て、物理法則を、のみならずのみならず、あらゆる座標系に関して云い、あらわし得るのだ。異議なし!」

娘 「まあ?」
ジイチヤン 「歌つて! 歌つて!」
とテープを投げる。

娘 マイクを持って歌おう。ネ!
「ばあやの夜話
くつにはばあさん住んでいた
子供が多くて どうしよう
ベルを鳴せや 戸をただけ

引金はずせや さあ入れ
水盤めがんで もう終り
もしも 水盤 丈夫なら
話も長く なつたのに
ああ こわいよ ばあや
の歌を?」

「そうだナーンセンス! (悲劇的に) そこから逃れることはでき
るかしらトーテム」

男1 「とてもなく拡散した金属的な生のアッケラカンとした感じ
の中で自立する生は未だ実現されていない」

女1 「人が人を養育する方法……」

男1 「学ばれていない学ぶべきものもない世界の表情」

女1 「私は何か悟ったような気になつたわ、でもそれは私が怖ろし
い疑問を見出し得たというのみにすぎないのじゃないかしら」

男1 「美しい毬花植物の記憶をつかみだしてあの忌しいアレの伝説
を物語ってくれ! 肌寒い夜明けに仄暗い壁によりそつて自らの
思惟を燃やしてそのぎくしゃくした体を温めたあの陰気なアレの
挿話さ!」

女三人、チリヌがフラワーラップに出る。

M—FREE JAZZ

チ 「見せなさい」

リ 「此處が何処だか知っているのですか?」

ヌ 「ああ、その名も高き革命裁判所附屬牢獄!」

チ 「そろそろ、もう分んなければ、エッ! アナタガタの云うこと
は絶対にノドボトケを通れないのよ」

ヌ 「自覚せよ、反意識的に! 見識論者たちの共同作業がトントン
と音をたてて崩壊したあと。街々の自他称斗士達は雪が降つても
風が吹いても外出させしないのは、20世紀末の必然的な成行きか

否や! あ、ああ、オク、もつと奥まで! 公平に分配せよ!」

リ 「つまりね、国内における正義、国内的な平和の問題は理想を追
い求める青年にとっての根本問題なのよね。そして、さらにその

底には兵器の増産問題、電子計算機問題、極大産業問題、極小産
業問題等々の大問題的問題が問題的に問題になつてゐるわけ。こ
れは問題だわ。どんなもんだい」

娘 「どんな問題?」

チ 「今日ノ立憲政体ノ主義ニ從ヘバ、君主は臣民ノ心ノ自由ニ干
渉セズ」と、一九四三年ベーネット事件の「もしわが憲法に不動
の座があるとすれば、身分の高底にかかわらず一中略一國旗に敬
礼させ宣誓を強制する一中略一その権限を一略一修正第一条の一
略一何を正統とするか一中略一と一略一さらに一略一しかして一

略一また「後略」との相互反略による敗北主義の問題！」

娘「皆さま、どうぞ後満足なさいまし。貴方がそれほどまでに望んでらっしゃる偉大にして崇高なる革命とやらを一人残らず御覧になれましょう。私、多少予言できるんです。繰返して申しあげますが、あなた方は、確実に革命を御覧になれますわ。雪が降れば革命が起るって、ガロアも云つておるでしょ、群論の中で。ヰアッキアッキアッ」

チ・リ・ヌの三人が同時に互を指しながら

チリヌ「この人と混同されでは困ります!!」

ジイチャン、パッと手を振る。

歓声！ テープ！

ジイチャン「現下国内の治安状況を顧みますに、御承知のごとくあるいは集団暴力により、また或はゲリラ戦法により、警察及び税務署等を襲撃して、放火、殺傷等の犯罪を敢てする暴力主義的破壊活動の背後には、憲法及びそのもとに成立致しました政府を武装暴動によって転覆することの正当性を主張し、またはその準備的訓練としての暴力の行使を扇動する文書が組織的に配付されているのであります。これら一連の事犯は広汎かつ秘密な団体組織によつて指導推進されている疑いを認めざるを得ないのであります。……五月一日子供の日、記念講演演説より。花まる組！もしくは三班に分れて家庭科の授業を！ 異議なし、と嬉しそうに振舞う、振舞う！」

男三人、ABCバットと登場。

A「こいつをお前にくれてやる。この地上に何しに来たんだ？」

B「こいつをお前にくれてやる。こんな陰気な喜劇を動物たちに見せようてのかい」
C「こいつをお前にくれてやる。だが誓つてもぐらだつて、火喰鳥だつて、紅鶴だつてお前の真似なんぞしないだろうよ」
B「おお、厳格なる数学よ、密より甘い精緻な授業!!」
A「算術！ 代数！ 幾何！ 違大なる三位一体！ かがやかしい三角形！ あなた方を知らない奴は大馬鹿だ！」

B「YOU！ YOU！ YOU！」
A「YOU！ YOU！ YOU！」
C「YOU！ YOU！ YOU！」

.....
終曲2 でもどうしようどうしようどうしようもないの章
女2「君が一番緊張するのはいつ？」
男2「盗む時だ」
女1「盗む時だ」
男4「盗む時だ」
女3「盗む時だ」
男3「盗む時だ」
女2「盗む時だ」
男2「だがそれもすぐ慣れてしまう」
女1「だがそれもすぐ慣れてしまう」
男4「だがそれもすぐ慣れてしまう」
女3「だがそれもすぐ慣れてしまう」

男3「だがそれもすぐ慣れてしまう」
女2「だがそれにさえすぐ慣れてしまう」
男1「チーッ。本来日常とはそもそも廢止されるべきものではない筈だ。それは求められるべきだ。モグラが急激に襲つて来る地核の変動を察知した時、眼の無い眼をどこに向けるかーに問題があるのと同じことだこれは。噴火する山は山自身を破壊しつくす時、一番美しい姿態で天空にのけぞる。ビビビビビビ微熱の襲撃！」

男2「何が？ 日常が？ とツッ！ ダイナミズムの表情はいつも優しいとは、ああ世にも不思議な物語りのり！ ヴアルダ！」

男1「そうだ！ 日常は実現されない」

女1「ホーラ、こいつは良い。クッキリと姿をあらわにした風景画

女4「プロメテウスの足の裏にはたった一本の赤い緑色の線が走っていたわけ。彼はそれだけを、彼女はそればかりを確めたかったわけよ、だけばキヨーツ！」
男4「キヨム、適度に緩和された苦痛か、それもあるそれがある所には。噴火か、あの火照りは地獄の火照りだ。熱い冷たい、にらめもない地平から地平へと逃げて行く動物達のたなびきが見える」

終曲4 悲しい告白の章

「コケコッコー！」と鶏の鳴き声。

男3「弟よ弟よ、答えてくれ。地平の果てまでも遠い君と僕のひたに、一粒の汗が生れる時への透視の完結が僕にはとても信じられないから、君への問い合わせが自身的の軽さに押しつぶされることがあるうとも弟さんよ今は答えてくれ！ 一度はこの僕にも物語りを想い英雄を想い黄金の船首に叫んだ時があつたのだーああ、愛しいことを考へる。何の罪、何の過あつて俺は今日の日の衰弱を手に入れたのか、ええ！ 僕にはもう話す術すら分らない。地獄への戸口は三cmほど開かれようとしている。ケツ。熱風が昇つて来る。身を焦すこともうながそつともしないこの風土に俺が俺以外の者として答える必要があるのか、こっちか、あっちか、それ向うかなどーあれはお笑いだつたな、階段の上に立つて覗いた朝食のなごやかなテーブルのハチ蜜のくだらなさーそら分つたか、もとよりお前など関係ない」

男4「(大声で) 水盃か！」

男2「ブッ」

と扉をかんだ後、ハレルヤの様な顔。

女1 「妹よ妹よ私が言いたいのは君への恋歌だけ。蒼い水へ手を伸ばして行くとたちまち草やかな日曜日が終焉した。南方の熱風が私を散り散りにして行ったわけ。遠くを走るイナズマのヒラメキ、他界の印象のぬぐいがたい印象。狂ったツバメが一羽私のまわりを旋回しているのがそれとなく感じられ、それが絶間ない恐怖の旋律をほとばしらせていたことは意外でありまた不必要的意外さだけで保っている私の肉の意外さだったの。ケム。逃れようとしても逃れられない20才の背みどろ。30才の赤みどろ。砂漠上の風化した巨木の予感が私の心を固型にしてしまうだろう。おどかしに満ち充ちた妹から妹の死へと加速度的に群らがる日々へと。今のはんだトマトジュースのイエロー・アンド・グリーンさはとたんにさびれて行く。妹よそうか君はオカマだったのか！ ああ裏切られた」と見栄を切る。

ジイチャンが席に乗って飛んで来て歌う。

M - SOONER OR LATER Byボブ・ディラン
へいたずらピエロ

これはこれ 喬異いピエロでもなく
凝りかたまりの ピエロでもない
これはこれ ピエロで ピエロで ピエロ
いたずらピエロ 脣白ピエロ
殻からはじけた早生の胡桃
これはこれ ピエロで ピエロで ピエロ

女2 「出す」

『SHE BREAKS DAWN AND CRIES T
O HER HUSBAND DADY OVR BABYS
GONE
』
ベビーズゴーインか。へただなあ。
男2 「ところでどうする？ どうしようか？ どうするか？ HO
W PLAY? どうすつか？ ナジャ！」

女2 「なんじやもんじや？」

娘「離弁！ 告白！ 何事も心にまかせば便なき今の様なれど心を正面に強く持ち物事に退屈せず、信心怠らず、勉むれば時刻て、後には大いに仕合せくなるなり、騒がず時を待つべし。クックッ！」

二人、再び旅立つ。

二の四 電位差の原理の現実性価少論の展開の章

省略

終曲5 バカリミタイの章

女2 「ケッケッケッ そして？」

男2 「はつとけかまうんか、ほつとけはつとけホットケーキ。気管支炎を手術しに行かせようか強制的に。いやいやそれはほどまでもすることもないだろう。どうせあいつら細い長い公園のホトリで金魚草にからまれて死んでしまったんだから。アッカンベーと舌

- 114 -

男2 「エ、と驚くかも知れない。それはダメだよ。俺さつき修正液をのみすぎちゃったんで頭の回転の調子がよくねえんだ。ちょっと待って！」

女2 「待つてられないわよ。さあ早く。これから実演に及ぶんでしょ、あいつらをやつける劇！」

男2 「どうすっか？ 面倒くさいからやろうか？」

女2 「どうしましょうか？ 面倒くさいからやろうか？」

男4、女1 突然出て来て

二人「まことにない。HELPと歌える君よそよ。そよそよそよと風が吹く」

と去る。

M - HELP Byビートルズ

二の五 被説教の社会的流通過程に関する表現主義的考察の章

トイチャンと娘。綱でグルグルまきにされて、遙か地平の彼方から逃げて事ることにしようか。

トイチャン「いくつになった？」

娘「今日で、丁度20才よ」

トイチャン「ホーム。20才か。ホーム」

「ところが二人、地平の彼方に引きづられて行く。

M - CANT BUY ME LOVE Byビートルズ

二の六 大混乱の章

省略

二の七 大沈黙の章

全部が全部、すごおく静まりかえっている、っての。一分間

二の八 大虚無の章

誰れもいなくなつて、SGT - DEPRS ONLY H

ARTS CLUB BAND だけがかすかに聞える。

二の九 歴史的インターナショナル会議、実況の章

A 「アンタはいつも欲しているって言つてゐるけど、ちつとも証明してくれないじやん？」

B 「忘れた時、夢の中で会つた頭はすごにお冷たくって、だから、他の女の娘にいつも全ての世界を欲つしてゐるの？」て聞いたら海は紫色で私の頭の色には似合わないって答えたのでつまんなかったから踊りつかれた足を引きすつて、王のシーザー的概念とソビエト独裁者のジャコバーニー主義的国家との間には何の若しい差異はないって断言しておいたわ。アンタは？」

チ「アナルコ・サンディカリズムもまた、かの有名なる記念碑的敗北に対して、空から迎ざまになつて赤い足の跡をベタベタ押していっただけよ。目新しいことなんか何もないわ」

C 「映画に出てるんだって？ もしくは一八七三年におけるバーキニン主義者の例に従うべきなのかなあ。僕、先週雨が降つたから家を追いだされちゃつたから、よく分んないけど」リ「タワリシチ・ロゾフキーの言い草じゃないけどさ、僕も、この歴史の転換点に於いて、次のようにロマンチックに言つて見たいよ。つまり、今こそ歴史の転換期である。って」

シナリオ

鳥のパレード

les oiseaux vont mourir du perou



脚本・監督 ロマン・ギャリー

○ (F·I) 海辺

薄暗い画面に、微かに女の顔が見える。

画面、明るくなる。

顔はアドリアーナ、海辺に横たわっているようだ。

周囲に鳥の死体が散らばっている。

アドリアーナの顔CU。汗ばみ、苦悶の表情。

男の手が彼女の顔に伸びる。
アドリアーナの手、砂をつかむ。

○ トップ・タイトル

鳥のトップ・モーション。それが動

いて、飛ぶ。

赤、緑、黄色の鳥の群れSM。

飛んで行く白い鳥→SM。

黒い鳥が飛ぶ。

赤と緑の鳥が飛ぶ。

そして紫と黒の鳥等々、多くの鳥が飛ぶ。

様々な色彩の一羽の鳥が飛び、そして

消える。

海辺の光景。

タイトル終る。

(F·O)

A 「光は東方より起り、晉ク西土ヲ照ス……。大連神社というのも、コンビラさんもエビスさんも存在しているこのカオス状況に対し、どの様な方法で立ち向うべきでしょうか」

B 「でも、いちばん退屈な遊び方ねッ」ときめつけてやりましょうや」

C 「お高くとまってるのかい？」って聞いて見ても良いんじゃないでしょうか」

D 「でも、もし暇で病氣するものならねって！」

E 「おもしろい！」

F 「お高くとまってるのかい？」って聞いて見ても良いんじゃないでしょうか」

G 「でも、もしもその罪を犯してないとしたら？」

H 「がそれを先にしてなあたら……」

I 「後しか働かない記憶力は貧弱だよ」

J 「そうね。再来週起ったことだもんね」

M - H E L L O W · H E L L O W · · · · ·

By B E A T L E S

J i j i · G O O D B Y E · G O O D B Y E · · · · ·

娘と去る。

A 「それでは次に移りましょう」

C 「でも、もしもその罪を犯してないとしたら？」

D 「がそれを先にしてなあたら……」

E 「後しか働かない記憶力は貧弱だよ」

F 「そうね。再来週起ったことだもんね」

出発劇

休憩劇と同じく、「虚空」より。「標的者」の後半、P二二四

と二一七の部分の対話。

終末の章

M - A DAY IN THE LIFE By ビートルズ

どこかで花火が舞う……。

おわり

B 「ワイ・ワイ・ワイ!!!!」

終章3 ほんじやはじめるかの章

男4 「ほんじやはじめるか……」

女2 「悲劇中の悲劇を！」

男4 「そうだ、朝まだきの海浜の砂がズレて行くような緩慢な感情のヒダのゆれ動きがある確かに衰退を感じさせ侵蝕されて行く他面、地核の裏側には凸型の死語が復活する。あれは……あのボケコトと？」

男2 「カリエール！ もう帰ろうかいや、黒テンの敏速な動きはある高貴な亡靈のようだ。時がのみ込まれる、たえなる粉末ジュースと共に」

女2 「ハハハ、ハハハ、ハハハ（LOVELY LITA）の調子でやつてちょうだい、僕が教えてあげるからハハ……」からの手紙を読もうか、可愛いも悲しい字面」

女1 「ボウ大なあらボウ大な恋歌とは！ とてもインビで風化を受けていくあたしの唇。型、かたち、型、かたち、型型型型からちゃ！」